

岩橋 楨夫 (北里大学名誉教授)

経歴 昭和 21 年(1946)2 月 22 日、福岡県大牟田市で生まれ、半月で幼稚園中退後、北海道旭川市へ、小学 4 年夏まで小樽市、小学 4 年秋から高校まで広島県五日市町、大学から東京都と神奈川県に住む。

学歴

昭和 39 年(1964)3 月 広島県立廿日市高等学校 卒業
昭和 43 年(1968)3 月 東京理科大学理学部化学科 卒業
昭和 45 年(1968)3 月 東京都立大学大学院理学研究科化学専攻修士課程 修了
昭和 50 年(1975)4 月 理学博士 (東京都立大学)
論文名「Radiotracer Studies on the Nature of Interfacial Films」

職歴

昭和 45 年(1970)5 月 東京都立大学理学部化学科助手
昭和 54 年(1979)10 月 アメリカ合衆国・クラークソン工科大学博士研究員 (S56.3 まで)
昭和 60 年(1985)7 月 東京都立大学理学部化学科講師
昭和 60 年(1985)9 月 北里大学衛生学部化学科講師
平成 5 年(1993)1 月 同学部助教授
平成 6 年(1994)3 月 同学部教授
平成 6 年(1994)4 月 北里大学理学部化学科教授
平成 23 年(2011)3 月 同学部 定年退職 (同年 4 月名誉教授)
平成 23 年(2011)4 月～平成 24 年 3 月 北里大学理学部非常勤講師
平成 23 年(2011)4 月 東京理科大学理工学部非常勤講師 (現在に至る)
平成 24 年(2012)4 月 東京理科大学理学部非常勤講師 (現在に至る)
その他の過去の非常勤講師：武蔵工業大学、北里大学、千葉大学、東京都立大学

学会活動

(日本油化学会関係)

昭和 59 年(1984)3 月 油化学会誌編集委員(H1. 2 まで)
平成 10 年(1998)3 月 日本油化学会理事 (H12.2 まで) 2 回目(H17.3 から H19.2 まで)
平成 10 年(1998)3 月 同学会役員等選考委員会委員長(H11.3 まで)2 回目(H14.4 から H15.3 まで)
平成 15 年(2003)1 月 J.Oleo Science 部門編集長(H19.12 まで)
平成 17 月(2005)3 月 同学会総務委員長(H19.2 まで)
平成 20 年(2008)3 月 同学会監事 (現在に至る)

(日本油化学会関東支部関係)

- 平成 5 年(1993)3 月 日本油化学会関東支部幹事(現在に至る)
平成 7 年(1995)3 月 同支部事業企画委員長(H9. 2 まで)
平成 10 年(1998)3 月 日本油化学会界面化学部会幹事(H21. 3 まで)
平成 16 年(2004)3 月 日本油化学会界面化学部会副委員長(18. 3 まで)

(日本化学会関係)

- 平成 5 年(1993)4 月 日本化学会コロイドおよび界面化学部会幹事 (H21. 3 まで)
平成 9 年(1997)4 月 同部会事業企画委員長 (H11. 3 まで)
平成 9 年(1997)4 月 日本化学会関東支部幹事(H11. 3 まで)、2 回目(H14. 4 から 16. 3 まで)
平成 15 年(2003)4 月 日本化学会関東支部事業企画委員長 (H16. 3 まで)

(日本液晶学会関係)

- 平成 11 年(1999)4 月 同学会生体関連・リオトロピック液晶フォーラム委員長(H17. 3 まで)
平成 13 年(2001)4 月 日本液晶学会理事(事業企画委員長)(H14. 3 まで)
平成 17 年(2005)4 月 同学会ソフトマターフォーラム委員(H21. 3 まで)

(日本近赤外分光研究会関係)

- 平成 17 年(2005)1 月 日本近赤外分光研究会理事(現在に至る)

受賞： 平成 17 年(2005)3 月 日本油化学会「学会賞」受賞

著書

専門書(油化学・コロイドおよび界面化学・近赤外分光)・教科書(化学熱力学・統計熱力学)の単独及び共著を含めて 18 冊

主な総説：

1. 分子が形成する分子集合体の構造と物性に関する研究 岩橋槇夫 オレオサイエンス 5(12) 563-571 (2005)
2. 脂質が形成する分子集合体の世界 岩橋槇夫 表面 49(4) 111-126 (2011)
3. Dynamic Molecular Movements and Aggregation Structures of Lipids in a Liquid State M. Iwahashi and Y. Kasahara, *Current Opinion in Colloid and Interface Science* 16(5), 359-366 (2011).